

ネパール オカルドウンガ地域病院事業

協力団体： HDCS(Human Development and Community Services)

※ネパールのキリスト教系NGOで、知的障害児の施設運営や病院運営支援を実施する。

協力期間： 1996年7月中旬～2011年7月中旬(ネパール暦2053年から2067年)

支援対象： オカルドウンガ郡(人口約17万人、全56ヶ村)と近隣5郡の住民

報告期間： 2007年7月中旬～2008年7月中旬(ネパール暦2064年)

支援規模： 5,395,613.62ルピー(約6,474,736円;使用レート1ルピー=1.2円)

*為替レートが送金時期によって異なる為、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

事業の背景と目的

ネパール東部に位置する山岳地域における病院事業と地域保健事業(保健行政サービスの機能強化とプライマリ・ヘルス分野での住民の能力強化)を同時に推進することを支援して、地域住民の総合的な健康状態の向上を目指します。

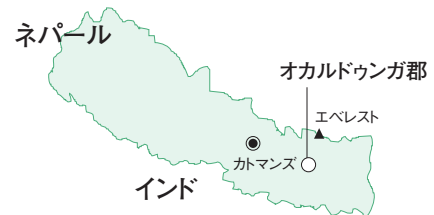
2008年度の総括

1 病院事業

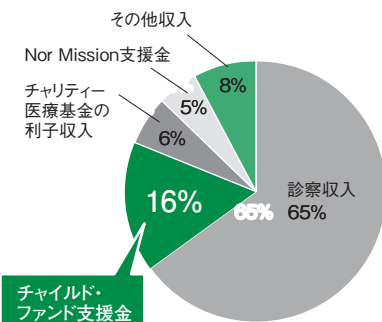
患者の年間来院数は2万3千人に達し、診療報酬は昨年よりも約200万ルピー増加し、病院収入の65%を占めるにいたりました。年間病床占有率は過去最高の99.4%に達し、検査件数は昨年度比28%増となりました。病院内にある栄養回復センターでは、59名の栄養不良児のリハビリテーションを行いました。資機材では、外科手術に使用する酸素濃縮器を支援しました。これまで病院の運営管理を行ってきたUMN(ネパールで活動するキリスト教系の国際NGO)は、ネパールの人々による病院運営管理を目指し、暫定的に2006年7月中旬から2年間ネパール国内NGOのHDCSに移管しました。しかし、病院の運営管理について、ネパール政府との協議が進まず、2008年7月中旬から再びUMNの傘下となりました。地域住民への病院運営移管と長期にわたるネパール人医師の確保が、今後の課題です。



結核患者に保健教育を行う病院スタッフ



病院事業総収入 18,983,976ルピー



2 地域保健事業

新たに4ヶ村での活動を開始し、合計5ヶ村で活動しました。事業から提供する薬品、保健所の薬品、村役場予算により購入した薬品、これらをまとめ、保健所に必要な薬品の常時確保を行ってきました。

しかし、今年度政府により導入された「保健所の薬品完全無料化」により、薬局での販売が行えなくなりました。一方で、政府から保健所に補給される薬品は、従来のように不定期かつ不十分です。保健所における薬品の常時確保が再び課題となりました。保健所では、遠くに居住する住民のために毎月3回移動クリニックを実施することになっていますが、事業からの支援により今年はその84%を達成し、1回あたりの平均受診者も11名から15名に増えました。

また、村で保健クイズ大会などを実施し、楽しみながら母親や子どもや保健ボランティアらが保健知識を学べるようにしました。



保健クイズ大会の様子

受益者の声

子どもが中度の栄養不良のため、病院の栄養回復センターで2週間滞在しました。滞在中に栄養補助食(サルボタンピト)を自分で作り子どもに食べさせ、毎日体重測定をして、子どもの体重も増えました。明日は、退院して子どもを家に連れて帰ります。子どもの元気な顔を家族に見せることができ、とてもうれしいです。



病院の栄養回復センターに滞在していた近郊の村出身の20代の母親